

## 大学院入試経験談

2017 院進 A クラス 辺天姿

辺天姿と申します。2017年7月に海南大学を卒業し、専攻は日本語です。大学3年生のとき、大学主催の高技能プロジェクトに参加し、亜細亜友之会外語学院に1年間の交換留学できました。卒業後、2017年の10月に再度亜細亜友之会外語学院の院進学コースに編入しました。先生方のご指導の下で、半年の勉学を通して、一橋大学大学院経済学研究科、上智大学大学院経済学研究科等に合格しました。現在、一橋大学大学院経済学研究科に在学しております。以下、私の勉学経験を皆さんと共有したいと思います。

まず、日本語の勉強において、出願前の準備として、評価の良い大学を目指すなら、良い日本語と英語の成績を取得することをおすすめします。日本語のレベルはできればN1級を、TOEFL成績を75点以上もしくはTOEIC750点以上を取得するのが良いでしょう。ほとんどの大学院が応募者の日本語と英語のレベルに明確な基準を設けています。私が出願した経済研究科で言えば、東京大学、一橋大学、そして上智大学は受験して2年以内のTOEFL成績の提出が必須となっています。日本で大学院への進学を準備するにあたって、中国国内の大学に在籍している間に英語の資格を取得したほうが良いでしょう。日本に来てから、専攻問題の準備と英語資格の取得を同時に行うのが時間的にきついと思うからです。日本語にそれほど自信がない場合、亜細亜友之会外語学院の先生方が全力サポートしますので、ご安心ください。日本語専攻の私は、大学3年生の時に交換留学で亜細亜友之会外語学院に入学した後に、N1を取得しました。同学院にて毎日の日本語の授業、及び随時行われたテストが、日本語能力試験と留学試験の合格に一役をかったと思います。

次は研究計画書についてです。経済学専攻の学生はもとより、日本語専攻の学生も出願する前に、日本の経済学研究領域にある程度の下調べをしたほうが良いでしょう。研究計画書は主に理論的研究と計量的研究に分かれ、どちらにしても、事前に志望の指導教授の研究分野を調べ、その教授が自分の研究テーマの指導ができるかを確認することが重要です。また、自分の研究テーマの先行研究を調べることは必須です。計画書を書くとき、外語学院の先生方とよく相談をし、先生方のご意見を仰ぎ、より自然な文章で書くようにしてください。

専攻分野の知識の学習について、大学院の入試は筆記試験があります。中国国内の大学での専攻と違った分野にしたい場合、その分野に興味があるほか、ある程度の理解をしておくことをおすすめします。そうすることによって、学部4年間の専門知識の習得のキャッチアップがより気楽にできると思います。個人的に、日本の大学院の経済研究科の募集人数が多い印象があります。近年、来日留学生人数の増加につれ、入試難易度もあがってきているように思います。経済学の研究は数学の知識と深く関係し、高等数学、ミクロとマクロ経済学、それから計量経済学の知識の習得も必須です。ここで、同じく経済研究科を志望する方には、以下の教材をおすすめしたいと思います。武隈慎一著『演習ミクロ経済学』、黒住英司著『計量経済学』と斎藤誠ら著『マクロ経済学』です。

最後は面接についてです。筆記試験合格後、面接通知が届きます。面接は主に研究計画書、並びに「なぜ日本へきましたか」といった一般的な質問が中心となっています。事前準備が非常に大切で、その場で日本語能力が試されます。面接のマナーや一般的な質問への答えを準備するにあたって、亜細亜友之会外語学院の大澤先生からたくさんアドバイスをいただき、研究計画書を添削して下さって、より自然な日本語で事前準備や研究計画を仕上げることができました。

進学は一朝一夕でできるものではないです。つらくてあきらめようとするとき、積極的に周りの先生方や友だちと交流をし、自分に自信がつくように努力すると良いでしょう。以上で、簡単なアドバイスではありますが、お役に立てれば幸いです。最後、皆さんにも志望の大学に合格できるようにお祈りします。